


フローレンスの活動は、皆様のご寄付に支えられています

マンスリーサポーターになってフローレンスの活動を応援していただけませんか？

継続的なご支援により、困難な状況に置かれている親子を支えることができます。

 例えば毎月3,000円の寄付で、予期せぬ妊娠で困った女性1人の相談対応を行うことができます。

 例えば毎月5,000円の寄付で、日々行う訪問看護の衛生環境を保つマスクを500枚購入できます。

毎月の寄付 新規ご入会

マンスリーサポーターとして継続的に決まった額をご寄付いただく方法です。金額は以下のコースからお選びいただけます。

1,500円/月

3,000円/月

5,000円/月

10,000円/月

15,000円/月

30,000円/月

申込み
方法

① 下記URLから支援金額を選択

<https://florencia.or.jp/AnnualReport2020>



② 支払いに使用するカード情報を登録 | ご利用できるお支払い方法 JCB/VISA/Master/AMEX/Diners

すでにマンスリーサポーターとしてご支援くださっている皆さんへ

国内の親子を取り巻く社会課題が年々深刻化する中、フローレンスでは、新しい支援モデルの開発やソーシャルアクション（世論形成・政策提言）を強化しています。マンスリーサポーターの皆さんのさらなる応援は社会問題解決の大きな推進力となります。

 例えば、5名の方が毎月10,000円の寄付をしてくださると

より多くの方々に社会問題を知っていただくための記事制作や発信が行えます。

 例えば、10名の方が毎月30,000円の寄付をしてくださると

ソーシャルアクションや新しい支援モデル開発をおこなう専任スタッフ1名を配置することができます。

毎月の寄付 コース変更手続き

毎月の寄付金額の変更をご希望の場合、以下のお手続きで変更いただくことが可能です。

※カードの決済システムの都合上、一度お問い合わせフォームからのご連絡をお願いしております。

- ① お問い合わせフォームから金額変更の旨をご連絡いただく
- ② ご案内メールを送付する（弊会）
- ③ 新たに加入するコースにお申込みをいただく
- ④ 現在加入しているコースの課金を停止する（弊会）



寄付専用お問い合わせフォーム

<https://florencia.or.jp/monthlyform>

フローレンスは東京都の認定を受けた、認定NPO法人です。

確定申告を行うことで寄付金控除を受けることができ、寄付金額の最大約半額が戻ってきます。

Florence
認定NPO法人フローレンス

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1丁目14-1 KDX神保町ビル3F TEL:03-6811-0903

フローレンスについて詳しく知りたい方、寄付についての詳細はこちらから <https://florencia.or.jp/> フローレンス で検索

新しいあたりまえを、すべての親子に。



アニュアルレポート 2020



認定NPO法人フローレンス



新しいあたりまえを、すべての親子に。

Florence
認定NPO法人フローレンス

2020年度も、 皆さんからの温かいご支援により たくさんの親子に笑顔届けられました

2020 FLORENCE ANNUAL REPORT

2020年度の活動の成果と、最新の取り組みについてご報告いたします。新型コロナウイルス感染症拡大により、親子を取り巻く環境が激変する中、迅速かつ柔軟な支援を届けられたのは、寄付で支えてくださる皆さんがいてくださったからです。これからも、私たちのビジョン「みんなで子どもたちを抱きしめ、子育てとともに何でも挑戦でき、いろんな家族の笑顔があふれる社会」の実現に向けて、親子の笑顔をさまたげる社会問題を解決することをミッションに、皆さんと共に走り続けます。

※数字は2021年6月現在

病児保育事業



子どもの急な病気が収入減に直結するひとり親世帯に対して月会費・保育料(1時間あたり)ともに1,000円(税抜)で利用できる「寄付によるひとり親支援プラン」を提供したお子さんは、のべ1,370名となりました。2020年度はコロナ禍において初めて健康なお子さんのお預かりもスタートし、休園や休校などに困る親子を支えました。今後も「病児保育」の枠にとらわれず、さ

2020年度までの
ひとり親家庭支援

1,370名

ひとり親
支援プラン
利用者の声

withコロナの今は、年配の親に病気の子どもを預けることはできません。フローレンスさんがいなかったら、今の仕事を続けることはできなかったと思います。フローレンスさんは、専門スタッフが事務局と常にやり取りをしていたきながら、臨機応変に対応してくださるので、本当に安心して預けることができました。「絶対に休めない仕事の日」に限って熱をだすという"子どももあるある"ですが、フローレンスさんのおかげで、心に多少余裕を持って受け止めることができます。

みらいの保育園事業

みんなの
みらいを
つくる保育園

東京・仙台

19施設を運営

フローレンスが運営する保育園では、緊急事態宣言下においても保育を必要とするご家庭に特別保育を実施。自治体の要請により臨時休園した園では、家庭支援としてオンラインを活用した活動、動画配信等を行いました。その後も感染対策に細心の注意を払いながら、出来る限り通常のお預かりを行っています。また、保育現場で多様な背景を持つ親子が増

えていることから、それぞれの困りごとに伴走する支援として2018年度より取り組みを開始した「保育ソーシャルワーク」は、2020年度までに約70家庭に対応しています。同時に、全国で保育ソーシャルワークが導入されることを目指し、内閣府「子ども・子育て会議」等で提言を行った結果、令和2年度予算に初めて保育ソーシャルワークに関する事業が盛り込まれました。

保育
ソーシャル
ワーカー
コメント

ソーシャルワークとは、困り事を抱える人が過ごしやすくなるように一緒に考えサポートすること。私たち保育ソーシャルワーカーは、保育所を通して寄せられる親子の課題や困り感、親子に寄り添う保育者の相談に真摯に耳を傾け、伴走することを心がけています。2021年度からは中野区内約115園の保育所を対象に、保育ソーシャルワークを開始しました。この事業を通じてたくさんの親子と保育者の困り感が軽減され、より安心して暮らせるように、そして全国の保育園に支援の輪が広がることを目指しています。

障害児家庭支援事業

2020年度までにお預かりした
障害児・医療的ケア児

249名

ヘレンを
卒園した
親御さんからの
メッセージ

障害児家庭支援事業で2020年度までにお預かりしたお子さんは、障害児保育園ヘレンでのべ97名、障害児訪問保育アニーでのべ88名、医療的ケアアシスターナンシーでのべ64名。2018年に開園したヘレン中村橋園では初めての卒園式が行われ、この春ヘレン・アニーから11名の子どもたちが卒園しました。また、2020年より渋谷区より委託を受け、認可保育園で

の障害児預かりに向けた研修をフローレンスがを行っています。2021年4月からは、品川区より委託を受け、障害の有無にかかわらず親子が交流・相談できるスペース「インクルーシブひろばベル」を開設。障害の有無にかかわらず親子が笑顔で暮らせる社会の実現に向けて、確実に歩みを進めています。

「障害のある子のお母さんって、働けないのかな」とすぐ後ろ向きになっていた時にヘレンを知り、「ああ、私も働けるんだ」と前向きな気持ちになりました。先生たちも、子どものことをすごくよく見てくれて、愛を持って接してくださり、日々の成長を私たち以上に喜んでくれました。子ども自身も信頼できる大好きな先生たちと友達に囲まれて、人とのかわりが好きになり、生活面でもリズムが整ってきて、少しずつ成長も見られるようになっています。

赤ちゃん縁組事業



赤ちゃん縁組

2020年度までに生まれた
新しい家族

17組

相談対応
件数

2,529件

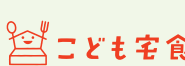
利用者
からの
メッセージ

2020年度は、コロナ禍による自粛生活の影響により、予期せぬ妊娠に関する相談件数が増える中、妊娠に悩む方・育ての親希望者を対象とした、にんしん・特別養子縁組LINEチャットボットをスタート。電話やメールでの相談にハードルを感じる方も利用できる支援を実施するとともに、相談員を増員し、2020年度までに2,529件の相談に対応しました。また、赤ちゃんの感染

リスクを避けた委託のため、社内のナースがサポートに入るなど、お子さんが新しい家族のもとに安心して迎えられるよう全社をあげて対応しました。コロナ禍において地域のプレママ・プレパパ教室が中止となる中で実施した「プレママ・プレパパ オンライン教室」も、全国から多くの参加者が集まり、好評をいただいています。

長年不妊治療を受けましたが子どもを授かることができませんでした。フローレンスの「まず実親と赤ちゃんが一緒にいられる方法を実親さんと一緒に考え、どうしても難しい場合に特別養子縁組」という生まれてくる子どもを第一に考える姿勢に共感し、養親研修を受け始め、夫婦で沢山の話し合いを重ね、子どもを迎えることになりました。子育てに忙しい毎日ですが、産んでくださった実親さんへの感謝の気持ちを子どもにもきちんと伝えながら、家族としての日々を過ごしていきたいと思っています。

こども宅食事業

2020年度までの
こども宅食の広まり

約4,500世帯規模

こども宅食
応援団の
支援先
事業者の声

2017年に文京区でスタートし、2018年からは関連団体の一般社団法人こども宅食応援団とともに、全国へ活動の輪を広げるこども宅食。コロナ禍で子ども食堂などの運営が難しくなる中、親子の孤独を防ぎ見守りを届ける支援として注目はますます高まり、2020年度末にはこども宅食応援団が伴走支援する実施団体は、全国19都府県、33団体までに拡大しました。

令和2年度の国の第二次・第三次補正予算では「支援対象児童等見守り強化事業」のなかで、こども宅食が施策の一つとして取り上げられるまでになり、有志の国会議員によってこども宅食の制度化を目指す「こども宅食推進議員連盟」も発足されました。親子を見守り支える取り組みの国策化に向けて、大きなうねりが生まれています。

コロナの影響もあり、様々な所から「食材を提供して欲しい」「今失業中だ」という相談が来ていて、深刻な状況も浮き彫りになり始めています。食材をお届けすると「こんなにもらえと思ってなくて驚きました」「仕事がなくて食事に困っていたから、ありがたい」という声も頂き、活動をスタートして良かったと思っているところです。(宮崎市の団体)



新型コロナこども緊急支援プロジェクト のべ64,200世帯以上への支援を実施

世界的に猛威を奮いつづける新型コロナウイルス。2020年は休園・休校で子どもたちの居場所が失われ、たびたび発令となった緊急事態宣言やそれに合わせた経済活動の自粛などにより、現在も私たちの日常が脅かされています。そのような状況で、特に生活に深刻な影響が及んでいた「医療的ケア児者家庭」「経済的に不安定な家庭」「ひとり親家庭」をサポートするため、フローレンスは2020年4月に＜新型コロナこども緊急支援プロジェクト＞を立ち上げました。多くの個人・法人の皆さんからのご支援を原資に、2020年度末時点でのべ64,200世帯以上、55の医療施設に支援を届けています。

※2020年4月～2021年3月の実績

医療的ケア児者家庭支援

のべ6,200世帯

感染症重症化リスクの高い医療的ケア児者に対し、フローレンスが事務局を担う「一般社団法人全国医療的ケア児者支援協議会」が寄付金を原資に日常のケアに欠かせない消毒液やアルコール綿などの衛生用品を手配し、各ご家庭に無償提供しました。また、全国のNICUやこども病院など55施設への医療物資支援も実施しました。



利用者
からの
メッセージ

● 本当に本当にありがとうございます。命に関わる物品なので、命の恩人と言っても過言ではありません。不安なことが多い時期ですが、あたたかい方がいらっしやと思うだけで安心です。

ひとり親家庭支援

のべ11,100世帯

フローレンスの病児保育を利用するひとり親家庭に、月会費の無償化、無料保育の提供などを行ったほか、定期的に食料品・日用品をお届けする「こども宅食ひだまり便」も実施しました。また、長友佑都選手との「#ひとり親をみんなで支えよう」プロジェクトでは、フローレンスが事務局を担い、全国のひとり親支援団体と連携し幅広い支援を実施しています。



利用者
からの
メッセージ

● 帰宅するとこども宅食ひだまり便が届き、クリスマス用の長靴のお菓子を喜ぶ子どもの顔を見て私も疲れが吹き飛びました。一週間、いや、今年一年頑張ってきたよかった。仕事と子育ての両立は厳しいですが、私にとってフローレンスさんは実親の様な存在で、とても支えられています。

経済的に不安定な ご家庭への支援

のべ46,700世帯

コロナ禍で経済的に不安定な状況にあるご家庭に対し、全国のこども宅食実施団体を通じ、一般社団法人RCFとも連携しながら、支援企業の皆さんから頂いた食品、雑貨、消毒液などの衛生用品を届けました。また、皆さんからのご支援により、各地団体で通常配送に加えて「臨時便」をお届けできました。さらに、より多くの親子を支えるため、全国各地で新しくこども宅食が誕生しています。



緊急支援が
届いた
ご家庭の声

● 宅配便を受け取りました。涙が出ました。心より感謝申し上げます。こちらの活動に多くのひとり親家庭が救われているはずです。ひとりではないんだと勇気をいただいています。

医療従事者家庭向け シッター支援

のべ141世帯

2021年1月、医療体制ひっ迫の状況を受け、新型コロナ感染症患者の受け入れ治療に対応する医療従事者等のご家庭に対し、寄付を原資に無料でシッターを派遣する支援を実施しました。

● 年末年始の感染者数増加で業務もひっ迫し、土日出勤も続き、心身ともに疲弊していましたが実家の両親には頼みづらく、苦しい状況でした。そんな時にシッターさんは子どもと目いっぱい遊んで、何かできることありますか?と気にかけてくださり、我が子に接するまなざしが温かく、親子共々、心身ともに救われました。ただただ感謝しかありません。

SOCIAL ACTION



ソーシャルアクション

ソーシャルアクションとは、社会課題の根本解決を目指し、制度や世論のアップデートを推進する活動です。

※2021年6月時点の実績

SOCIAL ACTION



1 #保育教育現場の性犯罪をゼロに

保育教育現場に性犯罪者を立ち入らせないようにする仕組み「日本版DBS」。フローレンスは2020年7月、小児性被害当事者の親御さんなどとともに、日本版DBSの創設を求める記者会見を開催。橋本聖子内閣府特命担当大臣(当時)に2万筆以上の署名を提出し、日本版DBSの創出を直接要望しました。2021年4月、菅義偉首相が日本版DBSを盛り込んだ提言を受け取り、子育て政策の司令塔として検討する子ども庁の「政策の柱になる」と語りました。



SOCIAL ACTION



2 #ノーセーフティネットひとり親家庭を救え

長友佑都選手との「#ひとり親をみんなで支えよう」プロジェクトでは、これまで十分な調査データが存在しなかった「別居中・離婚前の実質ひとり親家庭」を対象とした実態調査を、2020年9月に全国規模で実施。すべての実質ひとり親家庭が大きな困難を伴うことなく、あたりまえの権利として児童手当を受け取ることができるよう政策提言を行った結果、運用が見直され、2021年2月末に全国の自治体に広がりました。



SOCIAL ACTION



3 医療的ケア児支援法案成立

たんの吸引や経管栄養などが必要な「医療的ケア児」は全国に約2万人いるといわれています。従来の障害児福祉制度には「歩ける医療的ケア児」を支援する制度が存在せず、障害児通所施設等では看護師を配置すると財務的に成り立たず、医療的ケア児の居場所が増えない状況でした。2015年、フローレンスは在宅小児科医や他の障害児支援団体と共に「全国医療的ケア児者支援協議会」を立ち上げ「永田町子ども未来会議」に参画。提言活動の結果、2021年、障害児福祉制度の中に「歩ける医療的ケア児を対象にした基本報酬」が新設され、新規事業者が参入しやすくなったほか、6月には、医療的ケア児家庭への支援を自治体の「責務」と定めた法案が成立し、支援拡充に向け大きな一歩を踏み出しています。



SOCIAL ACTION



4 二人乗りベビーカー、折りたたまず都営バス乗車OKに

フローレンスは、多胎育児家庭から悲痛な声が多く寄せられた「二人乗りベビーカーを折りたたまずバスに乗れない状況」の改善を国や自治体に訴えてきました。その声が届き、2021年6月、東京都において都バス全路線で一定のルールの下、二人乗りベビーカーを折りたたまず乗車可能になりました。

SOCIAL ACTION



5 男性産休創設、男性育休義務化

代表理事駒崎が仲間とともに4年近く政策提言してきた「男性産休の創設」と、育休取得対象の男性に対して、制度の説明と、取得意向の個別確認を企業に義務化した「男性育休義務化」が、2021年6月に改正育児・介護休業法として成立しました。出産直後に男性も4週間の休暇を分割して取得できる仕組みができ、育児がスタートする時期に男性もより育休を取得しやすくなりました。

応援メッセージ フローレンスをご支援くださる方々の声

フローレンスを様々な形で支援してくださる仲間の皆さんと共に、社会変革に取り組んでいます



〔個人寄付者〕
古岩井一彦さん

「自分にどんな社会貢献ができるのか。」そんな思いを強めていた頃、代表の駒崎さんの本に出会い、人生に大切な気づきを得ました。遡ること6年前、待機児童問題に直面する我が家の救いになったのも「おうち保育園」。そんなフローレンスとのご縁から始めた寄付から、他人事となっていた、ひとり親の貧困、こどもの虐待、病児保育など、多岐にわたる「親子の笑顔をさまたげる社会問題」への関心が高まりました。微力ながら、「何とかしたい。」という志の高い活動をこれからも応援しています。



〔個人寄付者〕
河野岳男さん

私は、脳腫瘍の手術を受けて療養している時に、フローレンスさんを知りました。駒崎さんの本で寄付への考えが変わり、フローレンスさんの活動を見て心を打たれ、妻や子供3人への思いとも重なるところがありました。チームも利用者もサポーターも、関わる人達を大切に、その大きな繋がりで社会課題へ立ち向かうフローレンスさんに、これからも関わってみたいです。



〔個人寄付者〕
栗田さや夏さん

子供を育てながら真に女性が活躍できる社会にするためには、病児保育こそ重要と自身の経験から確信しました。家事、育児、仕事、なぜ日本は母親ばかりにしわ寄せがくるのかと不満でした。フローレンスを知ったきっかけは病児保育事業でしたが、障害児保育事業や赤ちゃん虐待問題解決への取組みなど大変意義のある活動をされており、微力ながら応援したいと寄付を決めました。フローレンスの活動をこれからも応援しています。

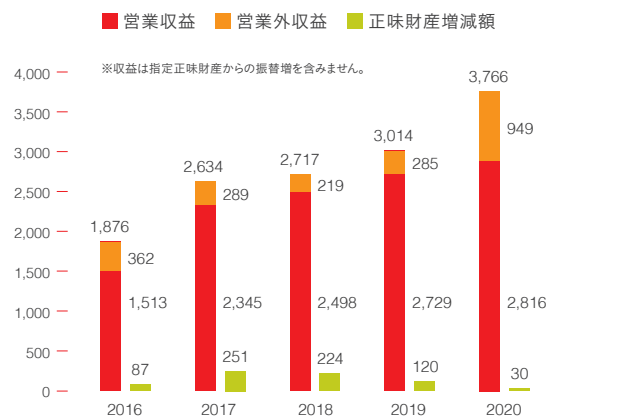
フローレンスを支えてくださった企業・団体の皆さん



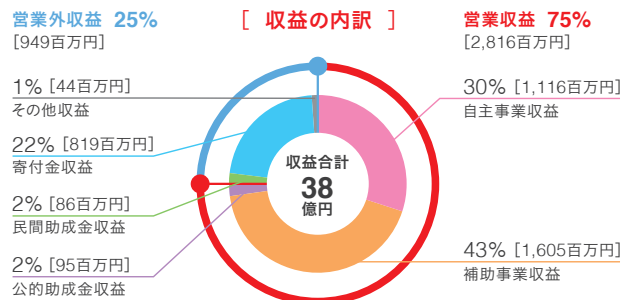
株式会社アダストリア／ヴィーナ・エナジー・ジャパン株式会社／エーザイ株式会社／カルビー株式会社／KDDI株式会社／株式会社資生堂／シーヴィーシー・アジア・パシフィック・ジャパン株式会社／CBグループマネジメント株式会社／ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ／大日本住友製薬株式会社／ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社／テロイト トーマツ グループ／株式会社ドクターシーラボ／豊田通商株式会社／日本ロレアル株式会社／P&Gジャパン合同会社 パンパース／Peach Aviation株式会社／BNPパリバ・グループ／B.LEAGUE／プリオジャパン株式会社／株式会社 Brillar／株式会社ベネッセコーポレーション／細木数子事務所／三井住友カード株式会社／三菱食品株式会社／株式会社三菱UFJ銀行／ユナイテッドアローズ グリーンレーベル リラクシング／ユーロモニターインターナショナル／Ron Herman ほか多数 ©技術提供ほか、さまざまな形で支えてくださった企業・団体の皆さん ウイングアーク1st株式会社／ソフトバンク株式会社／ヤフー株式会社 Yahoo!ネット募金 ※五十音順・敬称略

2020年度 財務報告

〔収益・正味財産増減額〕 単位：百万円



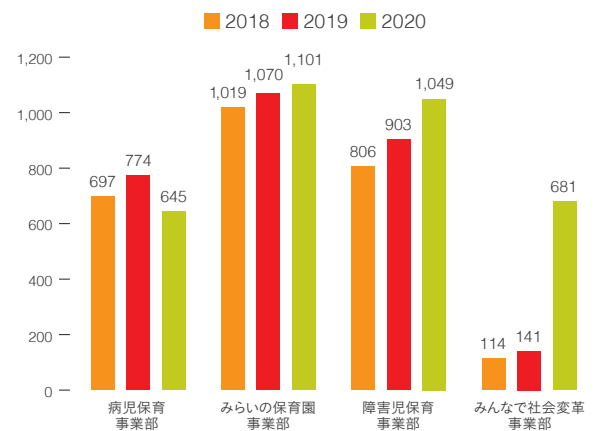
2020年度は総収益3,765百万円、前年度比1.25倍、751百万円の増収となっています。新型コロナウイルス感染症拡大を受け、みなさまよりフローレンスの活動に対して多大なご寄付をいただいたため、営業外収益が前年度比3.3倍、664百万円の増収となりました。今期いただいた寄付金の一部は、翌期以降の活動にあてるため積立金として特別損失に計上しています。



フローレンスの収益構成には2つの特徴があります。
①持続可能な事業運営：フローレンスはサービス提供による事業収益をメインの収益としているため、持続可能性の高い事業運営を行っているといえます。
②寄付者からの支援：フローレンスは事業収益を主としたソーシャルベンチャーでありながら、数多くの支援を受けながら事業を行っており、2020年度は8億円の寄付の他、1.8億円の助成をいただくことができました。寄付金は、主に新たな福祉サービスの開発や事業投資などに使用し、社会課題解決に向けた推進の力とさせていただきます。今後は、コロナ禍で見えてきた様々な課題を解決していくため、こども宅食事業や赤ちゃん縁組事業における支援の充実と受益者の便益向上、新規事業開発や災害等の有事の支援体制構築等も行っています。その原資として「あたらしいつながり創造積立金」「災害支援積立金」を新設し、積立を行っています。また、全事業を横断したソーシャルワーク人材拡充のため「人材等投資積立金」の積立も行い、継続的な支援活動を実施していく計画となっています。

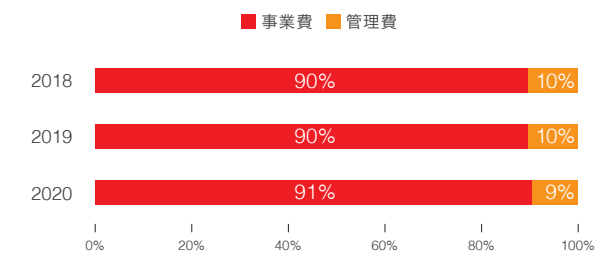
2020年度 活動計算書	
科目	金額(千円)
I 経常収益	
1.受取寄付金	819,330
2.受取助成金等	1,786,176
3.事業収益	1,116,200
4.その他収益	43,922
経常収益計	3,765,628
II 経常費用	
1.事業費	3,022,594
2.管理費	306,337
経常費用計	3,328,930
当期経常増加額	436,698
III 経常外収入	
経常外収入計	0
IV 経常外費用	
経常外費用計	405,517
法人税、住民税及び事業税	685
当期正味財産増加額	30,495

〔主要事業部別収益〕 単位：百万円



病児保育事業部：新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、衛生意識の向上およびリモートワーク拡大などの影響で病児のお預かり件数の減少により129百万円の減収となりました。
みらいの保育園事業部：新型コロナウイルス感染症拡大関連補助金による収入増やその他助成により、31百万円の増収となりました。
障害児保育事業部：2019年より立ち上げた「医療的ケアシッターナニシー」の利用者数拡大および「障害児訪問保育アニー」にて発達支援の拡充により増収し、146百万円の増収となりました。
みんなで社会変革事業部：寄付金の受取額の増加により、540百万円の増収となりました。

〔事業費比率〕



経常費用のうち事業に使用された費用の割合を示す事業費比率は、2020年度91%でした。フローレンスでは事業費比率90%前後を目安として事業運営しております。

2020年度 貸借対照表	
科目	金額(千円)
I 資産の部	
1.流動資産	1,916,662
2.固定資産	353,714
資産合計	2,270,376
II 負債の部	
1.流動負債	360,388
2.固定負債	930,019
負債合計	1,290,407
III 正味財産の部	
正味財産合計	979,969
負債及び正味財産合計	2,270,376

開示情報の前提

NPOはあくまでも「社会課題の解決」を存在意義とし、利益は継続的な活動をしていくための手段です。とはいえ責任を持って持続可能な運営を行うためには、企業と同様に財務健全性を度外視することはできません。フローレンスはそうした財務健全性を保つため、本ページにおいて財務情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。なお、会計処理および開示方法については、NPO会計基準に従っております。ご了承ください。